



環境リーダーNews

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 「会報」
ホームページ <http://npo-k-leader.net>

2017 10/28

Vol.100

季刊発行 秋号

会報 100 号に寄せて

当会創設代表世話役 会報創刊号発刊 古澤正文

会報は年に4回発行されているので、100号の発行は25年の歴史を経たこととなります。この25年間の日本の環境は大きく変わりました。特に都会周辺の大気、水、河川、街中の道路、人間の生活状態などすべてが歴史的に綺麗に転換しました。日本ばかりではなく、世界各国が力を合わせて環境保全に取り組んだ貴重な25年だったと思います。

当会では、国、県の環境政策のご指示を頂き、大気、水質などの測定や観察の方法を県民と共に学びながら各地で学習を実施し、その改善を考えて参りました。環境問題は、生活者は何が問題なのか判ってはいるが、生活の便利さを優先してしまい、いざ行動を起こそうとすると腰が重く立てないところを、興味を持たせて、立ち上がらせるところに知恵がいるところで、当会の会員は様々な知恵を絞って興味や関心をもってもらったことが懐かしく思い出されます。

25年を経て現在の環境レベルまで来ましたが、これを維持継続するには日常生活の意識の中に環境の目標を持つことが大変重要です。大自然の風光に恵まれ、山紫水明の大自然の中で生活する我々は、環境を保全する先進国の人間として、その美しさを保全し、世界の人々に示したいと思います。

友人から、長野県茅野市の御射鹿池（おさかいけ）の情報が手元に届きましたので一部を紹介します。この池は透明度が非常に高く、鏡のように周囲の景色を映し出し、絵の中にいるようで、日本一美しい景色だ

との紹介です。四季おりおりの表情がどれもすばらしい景観で、紅葉の季節を迎える御射鹿池は格別に美しく、日本のこの秘境をぜひ訪れるようにとの便りでした。



この池は本来、寒冷地の農業用水の溜池として作られたが、水源から流れてくる水が冷たく、酸性が強かったのでこの池で常温化、常態化した。その結果、標高1,100mのこの地のお米の収穫も大幅に改良されたそうです。このような池を眼下に浮かべながら、環境のレベルを更に上げて行きたいと思います。

————— ◆ —————

環境保全活動は国内だけの活動でなく、地球規模で考えなければならない問題でもあり、国の政策として、県や市の方針が設定され、当会に協力要請があれば、県民、市民に分かりやすく普及する方法を考え、活動することがとても重要なことです。現在の最大のテーマは地球の温暖化の問題です。世界的には自動車の動力をガソリン依存から電気に切りかえることで進んでいるが、電源確保の段階で温暖化防止のめどが立って難しくなっています。

この25年、当会は県のご指導を頂きながら、会員が知恵を出し合い活動してきたことが、国から表彰を受けることができたことを心から喜びたいと思います。今後、この成果の意義を発展させ、会報200号に向かって、会員皆様のご活躍に期待してご挨拶に代えさせていただきます。